

令和6年度

町政執行方針

※掲載している町政執行方針は、広報用に編集しています。原文はホームページまたは役場窓口（11番）、庶務支所で見ることができます。



6月4日、棚野孝夫町長が第2回町議会定例会において、町政執行方針を述べました。



津波避難タワーのイメージ図

白糠駅前広場整備事業について
は、白糠駅舎と町営バスターミナルの一体的な整備による利便性の高い公共交通の実現や、防災機能を併せ持つ拠点施設として、令和10年の供用開始に向けて、本年度から各種工事に着手します。

消防体制の整備として、導入から10年が経過した消防救急デジタル無線設備と、昭和63年に導入した水槽付きポンプ自動車を更新します。

大規模地震による津波に備え、津波避難タワーをはじめとする避難施設の整備とともに、今般の能登半島地震における課題や教訓を踏まえ、防災拠点施設の整備に向けた検討を進めます。

このたびの町長選挙では、議員各位ならびに町民皆さまからのご理解とご厚情をいただき、引き続き町政を担わせていただくこととなりました。このことは、身に余る光栄であり、その信頼と期待に応えられるよう、与えられた重責を全うします。

はじめに

このたびの町長選挙では、議員各位ならびに町民皆さまからのご理解とご厚情をいただき、引き続き町政を担わせていただくこととなりました。このことは、身に余る光栄であり、その信頼と期待に応えられるよう、与えられた重責を全うします。

私は、就任当初から現在に至るまで、今日の白糠町を築いてくれた先人に感謝し、子や孫へ活力ある「ふるさと白糠」を引き継いでいくという思いを信念として、まちづくりに取り組んできました。将来を見据え、行財政改革を断行し、また、市町村合併の取り組みなど大変厳しい町政の運営が強られる中、自立の道を選択し、以降身の丈に合ったまちづくりをしていくという精神で、議会、町民、行政が一体となつた大きなお力添えをいただきながら「新たなまちづくり」を推進してきました。

まさに顧みますと、この経験こそが、本町が将来に向かって持続可能な町政を確立するための確かな基盤の構築に結びつき、また、現在、全国の皆さまから応援をいた在、全国の皆さまから応援をいただいているふるさと納税も含め、今日のまちづくりの大きな推進力になっています。

私は、今任期におきましても、豊かな自然と気候風土、恵まれた地域ポテンシャルの発掘とその活用により、第一次産業から第二、第三次産業につながる地域経済の循環をしっかりと支え育てるとともに、環境に配慮したまちづくりを推進し、「白糠町に住んでみたい、住み続けたい、住んで良かった」と思っているだけのよう、これまで培った経験や人的ネットワークで最大限に生かして、町政の運営に努めています。

本年度の町政執行の基本的な考え方について

町政執行の基本的な考え方については、これまでと同様「第8次白糠町総合計画」を踏まえた3つの柱に加え、環境に配慮したまちづくりを推進していきます。

また、本年度は「第3期白糠町創生総合戦略」の策定、「白糠町人口ビジョン」を改訂して人口減少問題に対して本町における目標を示すべき姿をお示しし、その取り組みの推進に努めています。

- (7) 住宅政策による移住定住の促進
- (8) 保・維持
- (9) 消防体制の充実強化
- (10) 交通安全思想の普及啓発
- (11) 防災拠点施設等整備事業の推進
- (12) 津波避難施設等整備事業の推進
- (13) 防災拠点施設整備事業の推進
- (14) 道路冠水対策の推進
- (15) デジタル社会の実現に向けた取組の推進
- (16) 白糠駅前広場整備事業の推進
- (17) 公営住宅等長寿命化計画の推進
- (18) 消防・防災体制の充実強化
- (19) 防災拠点施設整備事業の推進
- (20) 道路冠水対策の推進
- (21) デジタル社会の実現に向けた取組の推進
- (22) 機能的で魅力ある
- (23) 基盤づくり

また、事前の備えとして、地震による被害の軽減を図るため、住宅・建築物の耐震診断および耐震改修に対する支援制度の構築について検討を進めるとともに「備えあれば憂いなし」「逃げるが勝ち」という意識的重要性を町民と行政がより一層共有していくため、その啓蒙に努めています。

大雨等により、道路冠水を繰り返している市街地の抜本的な排水対策を講じるため、本年度は雨水樹および排水管等の現況調査を実施し、道路冠水の解消に向け、計画的な取り組みを進めています。

自治体DX（デジタル・トランسفォーメーション）については、デジタル技術の活用による住民サービスの向上や、効率的な業務改善を計画的に進めるため「白糠町DX実行計画」を策定し、その取り組みを推進していきます。

- (1) 国道・道道の整備促進要請
- (2) 町道の整備促進
- (3) 橋梁長寿命化修繕計画の推進
- (4) 農道・林道の整備
- (5) 海岸保全・河川の整備促進要請
- (6) 地域公共交通ネットワークの確立
- (7) 住宅政策による移住定住の促進
- (8) 保・維持
- (9) 消防体制の充実強化
- (10) 交通安全思想の普及啓発
- (11) 防災拠点施設等整備事業の推進
- (12) 津波避難施設等整備事業の推進
- (13) 防災拠点施設整備事業の推進
- (14) 道路冠水対策の推進
- (15) デジタル社会の実現に向けた取組の推進
- (16) 白糠駅前広場整備事業の推進
- (17) 公営住宅等長寿命化計画の推進
- (18) 消防・防災体制の充実強化
- (19) 防災拠点施設整備事業の推進
- (20) 道路冠水対策の推進
- (21) デジタル社会の実現に向けた取組の推進
- (22) 機能的で魅力ある
- (23) 基盤づくり

世界各地方では、自然災害が頻発化、激甚化し、国内においても昨年夏に記録的な猛暑を経験するなど、地球温暖化の進展は、日常生活や社会、経済活動にさまざまな影響を及ぼしています。このことは、本町にとって決して対岸の火事ではなく、海水温の上昇による魚種の変化や、夏場の酷暑など身近なところにその影響が出ており、この環境問題に対して意識を持ち、行動していかなければなりません。

本年度は、農・林・水産・再生可能エネルギー・アイヌの方々の文化や生き方の5つのフィールドを活用した環境教育など、その施策の推進に努めています。

特に、再生可能エネルギーの取組は、環境問題の大きな要因となっているCO₂の削減に大きく貢献することから、再生可能エネルギーのボテンシャルや省エネルギーの取り組みに係る調査研究を進めるとともに、公共施設への自家消費型太陽光発電設備の導入を進め、災害時にも活用できる再生可能エネルギーの地産地消に取り組んでいます。

水道事業については、配水管の整備・更新を計画的に取り進め、安全で安定した水の供給に努めるとともに、給水資機材の充実を図り、緊急時における水の供給体制を速やかに整えます。



環境教育として、釧路総合振興局林務課の職員から森林の働きを学ぶ白糠学園の3・4年生。